

学校法人三島学園
東北生活文化大学短期大学部
機関別評価結果

平成22年3月18日
財団法人短期大学基準協会

東北生活文化大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 三島学園
理事長名	浅尾 豊信
学長名	浅尾 豊信
ALO	松尾 広
開設年月日	昭和26年4月1日
所在地	宮城県仙台市泉区虹の丘一丁目18の2

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
生活文化学科	生活学専攻	50
生活文化学科	子ども生活専攻	50
	合計	100

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

東北生活文化大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 22 年 3 月 18 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 20 年 6 月 10 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

建学の精神が教育課程によく反映され、資格取得のための科目は体系的に編成されている。学生の情報は教員間で共有され、学生が意欲を持って履修できるよう努力がされている。シラバスには一部を除き学習に必要な基本情報が記載されている。

教育組織は整備され、校地・校舎の面積も短期大学設置基準を満たしている。体育館など一部の施設が併設の教育機関との共用である。図書館には学生の利用促進のための様々な試みがされている。

授業は学生のために適切に実施されており、教育目的の達成のために、一定の効果をあげている。専門就職率もよく、就職先等の卒業生に対する評価はおおむね良好である。

入学時には担任を中心に、単位取得や学習についてきめ細かい指導が行われ、全学的に就職や進学への指導にも取り組んでいる。健康管理は保健センターで行われ、独自の奨学金制度も用意されている。

教員の研究活動は、積極的に行われていて、研究業績も全国の短期大学教員の平均的レベルである。教員の研修日はないが、時間割や委員の割り振りを融通して、研究時間を確保している。また、研究費の規定はないが、条件は整っている。

教育施設や教育の知識・技術を地域社会へ還元することに積極的であり、全学的に社会活動に取り組み、地域の拠点となっている。

理事長は理事会・評議員会を学校法人の意思決定機関として、学長は教授会を短期大学の教育研究上の審議機関として、それぞれリーダーシップを発揮して適切に管理運営している。事務組織は適切な規模で整備され、教職員の就業に関する規程も整備されており、人事管理は規則に従って適切に行われている。

財務委員会を中心に毎年度、関係部門と協議調整を行い、事業計画と予算を理事会で決定し、適切に執行されている。財務体質にやや課題があるが、過去 3 ヶ年について学校法人の収支の状況は良好である。短期大学に必要な施設・設備が整備され、適切に管理され、省エネルギー対策、省資源対策、その他地球環境保全にも配慮してい

る。

平成5年に自己点検・評価委員会規程が制定され、その後、自己評価報告書として4回公表されており、その成果を基に平成17年度には新たに子ども生活専攻を設けるなど教職員は改革・改善に前向きに取り組んでいる。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- ファカルティ・ディベロップメント（FD）のための教員セミナーと、年2回発行のFDレターによって、教員の教育活動への意識向上を積極的に図ってきており、このようなFDに関する情報の共有と知識の蓄積を図る取り組みがされている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 図書館の利用者拡大・促進を図るための工夫として、学生の絵画・彫刻作品展、豆本の紹介展等の企画をするといった積極的な取り組みがみられる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 健康管理は保健センターで行われ、健康相談（カウンセリング）等の管理体制が整備されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 教育施設や教育の知識・技術を地域社会へ還元することに積極的であり、全学的・組織的に社会活動に取り組み、地域の拠点にもなっている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- シラバスでの内容の記載が不十分で、表記の仕方など改善が望まれ、授業について専任教員と兼任教員との意思の疎通、協力体制がとれるような工夫作りが望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

- 中・長期経営計画及び財務計画を策定し、短期大学の収支改善を含めて、財務体質の改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

「清く、正しく、健全な人間の育成」を目的とした建学の精神と教育理念は歴史と伝統が感じられる。この建学の精神は、創立以来一貫しており、学生に理解され、現代に生かされ、そして実際に生かすよう点検・努力がみられる。これによって社会に貢献できる人材を育成するという教育理念が、日常の教育活動に生かされている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

建学の精神・教育の理念を背景として、各専攻の特色を生かした免許・資格を重視した教育課程が体系的に編成されている。各教育課程は免許・資格を取得できる機会を提供することで、学生の多様なニーズにこたえるものとなっている。

授業内容や教育方法等を学生に周知するために、初回の授業で授業担当者がシラバスを用いてオリエンテーションを実施するなどシラバスを積極的に活用している。なお、担当者の記述に統一性を持たせると学生にとってさらに有効なものになる。

授業形態（講義・実習・演習）及び必修科目・選択科目のバランスは取れている。

専任教員同士の意思の疎通により協力体制は構築されているが、さらに兼任教員との間に授業等に関する共有意識を持たせるような工夫ができれば教育活動の一層の発展が期待できると考えられる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

専任教員数は短期大学設置基準に定める基準を充足しており、教員の採用、昇任は

規程に基づき適正に行われている。教員は学生の学習活動を熱心にサポートし、クラス担任制により適切な助言や指導が行われている。年齢構成のばらつきを除けば教育組織は整備され、校地・校舎の面積も同設置基準を満たしている。ただし、体育館等一部の施設が併設の教育機関との併用であり、学園全体としての調整に苦慮している。

図書館の蔵書数、学術雑誌数、AV資料数及び座席数等は、在籍学生数に比し、適している。図書館の利用拡大・促進を図るために企画展を開催している。

教育の実施体制は適切であり、教育の充実をめざして、教員間の意思の疎通を図り、取り組んでいる。教員の授業、学生指導、その他の校務等に負担が多いが、教員の努力によりこなされている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位認定の方法は適切であり、取得状況も妥当である。

学生の満足度調査の結果からは、教員の教育活動への熱心な取り組みの姿勢について学生の理解が得られているなど、学生のニーズをとらえた教育活動が行われている。授業に対する学生の満足度は高く、希望者の大半が免許・資格を取得し、就職内定へと結びつけている。

教職員の熱意ある指導により、退学者数は減少傾向にあり、学生へのサポートやケアが適切に行われている。

今後、教育目的・教育目標の達成度を知る上でも卒業後の評価をより具体的に進め、さらに就職先への調査に取り組んでいくことが望まれる。

評価領域Ⅴ 学生支援

学生支援については、各委員会が設置され、全学的・組織的に教職員が協同して行っている。入学に関しては必要情報が大学案内・入試要項・ウェブサイト等で周知が図られている。合格者には動機付けを高める工夫がされ、集中レッスン等で学力不足を補っている。入学時から担任を中心に、単位取得や学習についてきめ細かい指導が行われ、全学的に就職や進学への指導に取り組み、1年次から集中的に指導をしている。健康管理は保健センターで行われ、独自の奨学金制度も用意されている。卒業時には表彰制度がある。

社会人入学は積極的に進められている。長期履修生は制度化されていないが、入学定員を充足していく方法の一つとして検討の余地があると思われる。

評価領域Ⅵ 研究

教員の研究活動は、若い教員を中心に積極的に行われている。研究業績も全国の短期大学教員の平均的レベルであると判断できる。国際学会への出席は活発であり、紀要や教員セミナーでの研究成果の発表の機会も設けられている。科学研究費補助金の申請は過去3ヶ年で極めて少なく、外部研究資金の導入もないので、これらの補助金

や資金獲得のための努力が望まれる。研究室は1人1室が確保されている。研修日はないが、時間割や委員の割り振りを融通して、研究時間を確保している。また、研究費の規定はないが各人に計上されている。研究環境は厳しいながら、一応整っている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

教育施設や教育の知識・技術を地域社会へ還元することに積極的であり、全学的・組織的に社会活動に取り組んでいる。「子育て・家庭支援センター」は専任教員や学生がかかわる保育サービスや公開講座を行い、地域の拠点となっている。また、学生には実習事前指導の一環として地域の児童館・保育所・幼稚園でのボランティア活動を推奨し、また学生の研究作品の発表会や短期大学主催の記念講演会が公開されている。加えて教員は公開講座や各種研修会の講師として活動している。このように全学的に社会的活動を積極的に推奨し、地域貢献を果たしている。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事長は理事会・評議員会を学校法人の意思決定機関として、学長は教授会を短期大学の教育研究上の審議機関として、それぞれリーダーシップを発揮して適切に管理運営している。

事務組織は適切な規模で整備されており、教職員の就業に関する規程も整備されており人事管理は適切に行われている。

評価領域Ⅸ 財務

財務委員会を中心に毎年度関係部門と協議調整を行い、事業計画と予算を理事会で決定し、関係部門において適切に執行されている。過去3ヶ年について学校法人全体の収支の状況は良好であるが、負債が余裕資金の額を上回っており財務体質の改善が望まれる。

短期大学に必要な施設・設備が整備され適切に管理され、省エネルギー対策、省資源対策、その他地球環境保全にも配慮されている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

平成5年に自己点検・評価委員会規程が制定され、その後平成9、15、18年に規程が改定され、結果は自己評価報告書として4回公表され、平成17年度には新たに子ども生活専攻を設けるなど教職員の自己点検・評価に対する意欲が感じられる。